

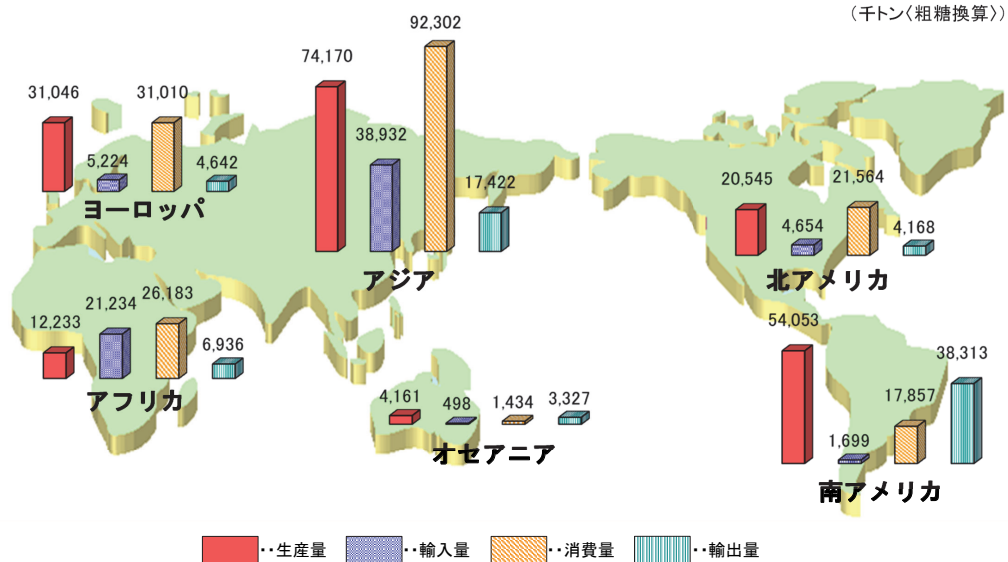
砂糖の国際需給



調査情報部

1 世界の砂糖需給（2025年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2025/26年度予測値）



資料：英国の民間調査会社GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, December 2025」を基に農畜産業振興機構作成
 注1：年度は、国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン 〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1995/96	51,697	122,196	34,022	116,280	36,928	54,707	47.0
2000/01	70,442	131,428	38,492	130,890	41,455	68,017	52.0
2005/06	65,335	151,410	47,604	150,147	50,394	63,808	42.5
2010/11	60,007	167,303	54,416	165,435	58,614	57,676	34.9
2015/16	82,280	175,159	69,017	179,289	69,498	77,669	43.3
2020/21	89,141	181,966	67,399	185,968	68,101	84,436	45.4
2021/22	84,436	186,381	69,876	189,210	71,221	80,262	42.4
2022/23	80,262	190,661	71,244	190,748	71,418	80,001	41.9
2023/24	80,001	195,862	76,505	190,890	76,921	84,556	44.3
2024/25	84,556	189,792	73,009	190,398	73,908	83,052	43.6
2025/26 (2025年12月予測)	83,052	196,207	72,241	190,350	74,809	86,340	45.4

資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, December 2025」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」および「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの更新となっていますので、次回は2026年4月号の掲載となります。直近の内容は2026年1月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003457.html

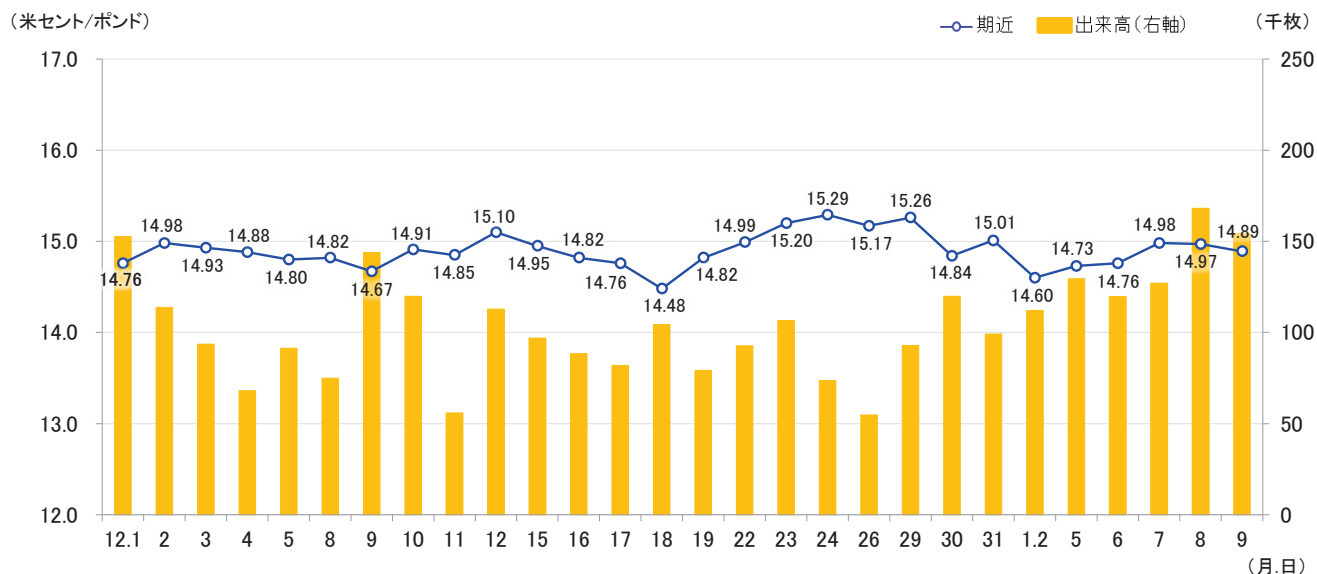
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003458.html

2 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（12/1～1/9）

～年末休暇前に15セント台まで回復もドル高などで再び14セント台に～

図 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所
注：期近3月限の値。

2025年12月のニューヨーク粗糖先物相場（3月^がぎり限）の推移を見ると、1日はインド産の砂糖増産見通しにより1ポンド当たり14.76セント^(注1)と前取引日から下落した。2日はEUのてん菜作付面積の縮小見通しから上昇したものの、3日以降はリアル安^(注2)やインド産の増産見通しにより下落傾向となり、9日は同14.67セントをつけた。10日はドル安により同14.91セントと上昇したが、11日は原油安^(注3)で一時的に下落し、12日はリアル高により同15.10セントと再び上昇した。15日以降はインド産の増産や原油安などから下落傾向となり、18日は同14.48セントをつけた。19日以降は年末休暇前のショートポジション^(注4)をカバーするための買い戻しやブラジル産の減産見通しにより上昇傾向となり、29日は同15.26セントをつけた。30日はドル高で下落したが、31日はショートポジションをカバーするための買い戻しで同15.01セン

トと上昇した。

26年1月に入ると、2日以降はインド産の増産とブラジル産の輸出量減少により上昇傾向となり、7日は同14.98セントとした。8日以降はドル高で下落に転じ、9日は同14.89セントとなった。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してリアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

(注3) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も減少する。バイオエタノールの需要減少により、その原料作物（サトウキビ、てん菜など）のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が増

えると想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

(注4) 将来の値下がり期待して売りの持ち高を取っている状態。

3 世界の砂糖需給に影響する各国の動向 (2026年1月時点予測)

ブラジル

2025/26年度 (4月～翌3月) の見通し

【サトウキビ】 収穫面積：905万ha (前年度比2.4%増) 生産量：6億6100万トン (同2.6%減)	【砂糖 (甘しゃ糖)】 生産量：4655万トン (同1.4%減) 輸出量：3600万トン (同0.5%減)
---	--

2025/26年度の砂糖生産量および輸出量はわずかな減少見込み

2025/26年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、905万ヘクタール (前年度比2.4%増) とわずかな増加が見込まれている (表)。しかし、サトウキビ生産量は、前年度の火災や年初からの干ばつ傾向に加え、25年6月と7月に中南部で局所的に発生した霜害などの影響により、6億6100万トン (同2.6%減) とわずかな減少が見込まれている。

砂糖生産量は、世界の砂糖相場の下落やエタノール30%混合 (E30) 義務付けによるエタノール需要の増加などにより、サトウキビの砂糖への仕向け

割合の低下が続くとの予測から、4655万トン (同1.4%減) とわずかな減少が見込まれている。砂糖輸出量は、3600万トン (同0.5%減) とわずかな減少が見込まれているが、引き続き国際市場でのブラジル産砂糖に対する堅調な需要が見込まれている。現地報道によると、同国の25年のエタノール輸出量は16億1000万リットル (前年比14.6%減) となり、過去5年平均より約20%減少し、17年以来最低の水準となった。一方、エタノール輸入量は、3億1900万リットル (同66.2%増) と大幅な増加となった。

表 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (12月予測)	2025/26 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,440	8,408	8,844	8,842	9,054	2.4	
サトウキビ生産量	606,676	713,134	678,676	651,500	661,000	▲ 2.6	
砂糖	生産量	39,700	49,320	47,190	46,330	▲ 1.4	
	輸入量	2	5	4	5	8.3	
	消費量	10,924	10,965	10,751	10,551	▲ 1.9	
	輸出量	28,888	37,393	36,176	35,776	▲ 0.5	
	期末在庫量	2,233	3,200	3,467	3,475	3,476	0.2
	期末在庫率	5.6	6.6	7.4	7.5	7.5	0.1ポイント増

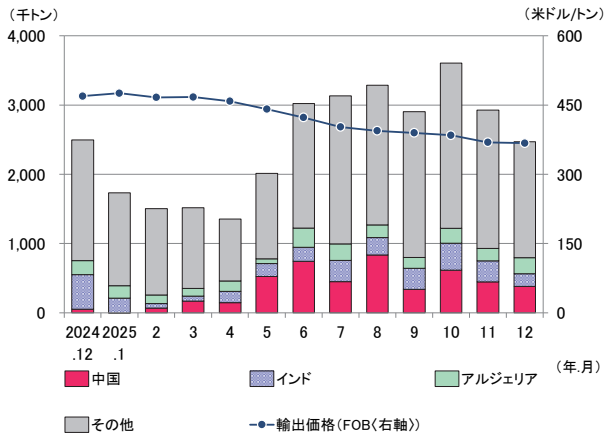
資料：GlobalData UK Ltd. [Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2026]

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

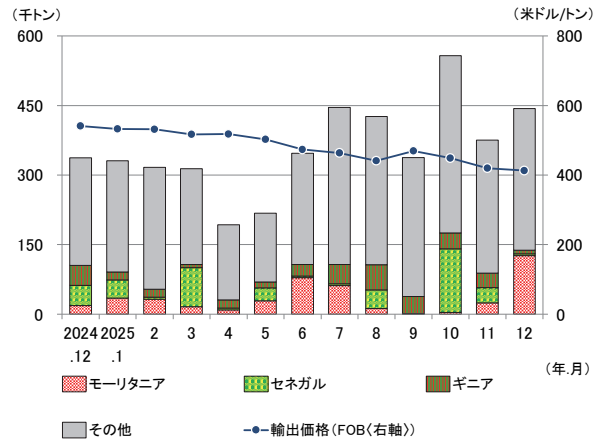
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

インド

2025/26年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：526万ha（前年度比0.3%増）

生産量：4億3481万トン（同11.5%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3339万トン（同18.7%増）

輸出量：353万トン（同13.3%減）

2025/26年度の砂糖生産量は大幅な増加見込み

2025/26年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、526万ヘクタール（前年度比0.3%増）と前年度並みが見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、1）25年のモンスーンが収量向上に寄与したこと、2）マハラシュトラ州など一部地域で発生した洪水の影響が長期的なものではないとの推測から、4億3481万トン（同11.5%増）とかなり大きな増加が見込まれている。

砂糖生産量は、主要生産州であるマハラシュトラ州、ウッタル・プラデーシュ州およびカルナータカ州でのサトウキビの増産と歩留まり（糖回収率）の

上昇により、3339万トン（同18.7%増）と大幅な増加が見込まれている。一方、砂糖輸出量は、世界の砂糖相場の下落により、353万トン（同13.3%減）とかなり大きな減少が見込まれている。

また、現地報道では、インド砂糖・バイオエネルギー製造業者協会（ISMA）が砂糖の余剰状況、相場の下落、エタノール転用の制約に直面する中、第2世代バイオエタノールおよび持続可能な航空燃料（SAF）を含むバイオ燃料に対する予算支援やエタノール20%混合（E20）より高い混合率などの実現に向けたロードマップの作成を政府に求めているとしている。

表 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

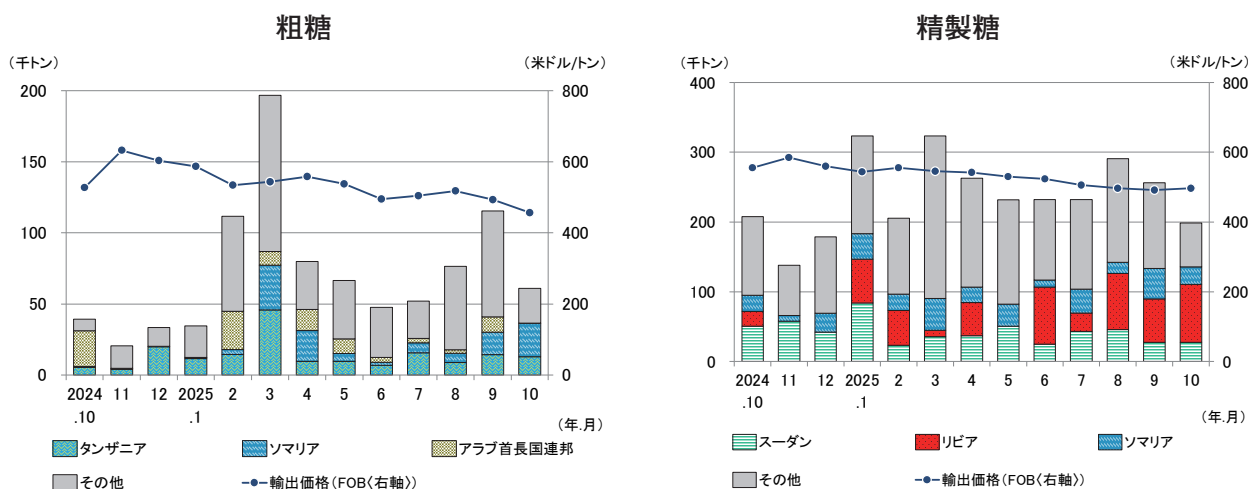
年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (12月予測)	2025/26 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	5,441	5,544	5,243	5,259	5,259	0.3	
サトウキビ生産量	455,898	443,707	389,847	434,807	434,807	11.5	
砂糖	生産量	35,389	34,677	28,132	33,394	33,394	18.7
	輸入量	1,687	3,128	2,802	3,035	3,163	12.9
	消費量	30,078	31,093	30,510	30,240	30,780	0.9
	輸出量	8,646	4,384	4,068	3,562	3,528	▲ 13.3
	期末在庫量	6,286	8,614	4,970	8,137	7,219	45.2
	期末在庫率	16.2	24.3	14.4	24.1	21.0	6.7ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2026」

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

中国

2025/26年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：121万ha(前年度比2.1%増)

生産量：8014万トン(同9.0%増)

【てん菜】

収穫面積：23万ha(同8.3%増)

生産量：1266万トン(同5.9%減)

【砂糖(甘しゃ糖およびてん菜糖)】

生産量：1235万トン(同2.3%増)

輸入量：542万トン(同16.3%減)

2025/26年度の砂糖輸入量は大幅な減少見込み

2025/26年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、競合作物よりも収益性が高いことから生産者が作付けを増加させたことで、121万ヘクタ

ール(前年度比2.1%増)とわずかな増加が見込まれている(表)。サトウキビ生産量は、主産地である広西チワン族自治区や雲南省での収穫開始が遅れているが、サトウキビの生育は良好であるため、8014万トン(同9.0%増)とかなりの程度増加が

見込まれている。

てん菜収穫面積は、競合作物の市場価格や需要の低下により、生産者が作付けを増加させたことで23万ヘクタール（同8.3%増）とかなりの程度増加が見込まれている。てん菜生産量は、1266万トン（同5.9%減）とやや減少が見込まれているが、収穫が順調であることから前月予測から上方修正された。

砂糖生産量は、てん菜の減産をサトウキビの増産

が補完することで1235万トン（同2.3%増）とわずかな増加が見込まれている。砂糖輸入量は、引き続き国内の需給ギャップを埋めるために一定の輸入が予想されるが、国内生産の改善見通しから、542万トン（同16.3%減）と大幅な減少が見込まれている。しかし、世界の砂糖相場が下落し、国内産と関税割当枠外で輸入される砂糖との価格差が縮小する中、同国では砂糖の備蓄拡大を図る可能性がある。

表 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

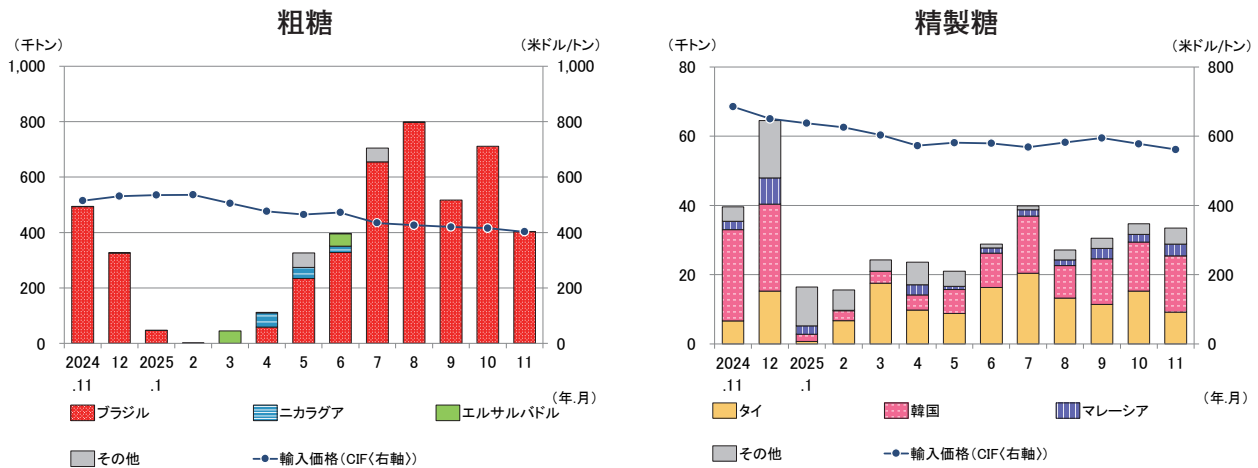
年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (12月予測)	2025/26 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,102	1,095	1,180	1,205	1,205	2.1	
サトウキビ生産量	62,595	73,132	73,537	79,601	80,137	9.0	
てん菜収穫面積	182	167	216	234	234	8.3	
てん菜生産量	8,719	9,377	13,460	12,610	12,662	▲ 5.9	
砂糖	生産量	9,699	10,773	12,067	12,312	12,345	2.3
	輸入量	5,851	7,402	6,470	5,318	5,418	▲ 16.3
	消費量	16,578	16,740	16,924	16,956	16,956	0.2
	輸出量	201	179	170	149	164	▲ 3.4
	期末在庫量	14,193	15,449	16,893	17,417	17,536	3.8
	期末在庫率	84.6	91.3	98.8	101.8	102.4	3.6ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2026」

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸入量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

注3：2025年2月の粗糖輸入量は、千トン未満。

E U

2025/26年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：140万ha（前年度比10.5%減）

生産量：1億1416万トン（同2.0%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1728万トン（同0.2%減）

輸入量：183万トン（同21.6%増）

2025/26年度の砂糖輸入量は大幅な増加見込み

2025/26年度（10月～翌9月）のてん菜収穫面積は、生産量上位国であるフランス、ドイツ、ポーランドを中心に各国で減少が見込まれることから、140万ヘクタール（前年度比10.5%減）とかなりの程度減少が見込まれている（表）。てん菜生産量は、フランスでは単収の向上、ドイツでは糖度の改善をそれぞれ見込んでいるものの、作付面積の減少により、1億1416万トン（同2.0%減）とわずかな減少が見込まれている。

砂糖生産量は、1728万トン（同0.2%減）と前年度並みが見込まれているが、フランスやオランダなどでの収量予測が上方修正されたことで、前月予

測から約16万トン上方修正された。砂糖輸入量は、EU域内の砂糖価格が下落する中、依然として無税枠を利用した砂糖輸入が可能な状況にあり、精製糖企業による相当量の輸入契約がすでに締結されていることが明らかになったことから、183万トン（同21.6%増）と大幅な増加が見込まれている。

また、欧州における直近の砂糖税（糖類を含む飲料に対する課税）の動向について、英国では28年1月からの課税対象範囲の拡大などが発表されたが、ポーランドでは課税対象範囲の拡大などを目的とした増税案に同国大統領が拒否権を行使し、イタリアでは繰り返し延期されている砂糖税に関する法案の施行を27年1月にさらに延期した。

表 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

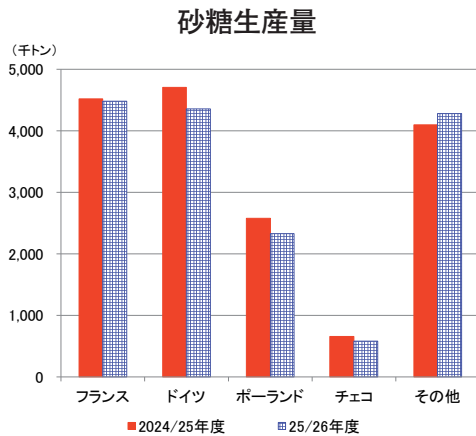
年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (12月予測)	2025/26 (1月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,398	1,447	1,569	1,401	1,403	▲ 10.5
てん菜生産量	99,760	109,898	116,458	112,857	114,155	▲ 2.0
砂糖	生産量	15,480	16,313	17,308	17,118	▲ 0.2
	輸入量	3,287	2,199	1,503	1,853	21.6
	消費量	17,271	16,375	16,512	16,512	0.0
	輸出量	899	2,087	2,090	2,127	1.8
	期末在庫量	1,909	1,959	2,168	2,501	21.3
	期末在庫率	10.5	10.6	11.7	13.4	14.1

資料：GlobalData UK Ltd. [Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2026]

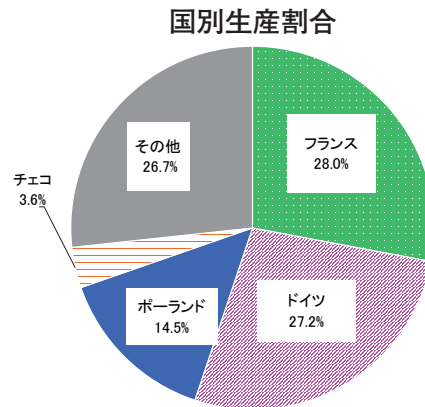
注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し (2025/26年度) (2025年12月時点)



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：数値は予測値。



資料：欧州委員会

4 日本の主要輸入先の動向 (2026年1月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖<HSコード1701.14-110>および甘しや糖・その他<同1701.14-200>の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイである。2024年の主要輸入先の割合を見ると、豪州が90.2%（前年比1.4ポイント減）、タイが9.7%（同1.3ポイント増）と、両国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2025/26年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：34万ha（前年度比2.1%増）

生産量：2887万トン（同2.5%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：391万トン（同0.2%減）

輸出量：293万トン（同1.0%増）

2025/26年度の砂糖輸出量はわずかな増加見込み

2025/26年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、34万ヘクタール（前年度比2.1%増）とわずかな増加が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、24/25年度の推定値が前月から上方修正されたものの、2887万トン（同2.5%減）とわずかな減少が見込まれている。収穫作業は、過去数年と比較して早期の12月中旬に終了し、26/27年度の早期作付け開始に有利に見込まれている。一方、豪州砂糖製造者協会（ASM）は、サトウキビ価格の下落で多くの製糖工場が赤字での経営を

強いられており、砂糖業界にとって厳しい年となった旨の声明を発表した。

砂糖生産量は、CCS^(注)が前年を上回るものの、サトウキビの減産で391万トン（同0.2%減）と前年度並みが見込まれている。砂糖輸出量は、アジア地域向けを中心に引き続き多くの需要があることから、293万トン（同1.0%増）とわずかな増加が見込まれている。

(注) Commercial Cane Sugar（可製糖率）の略。サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

表 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

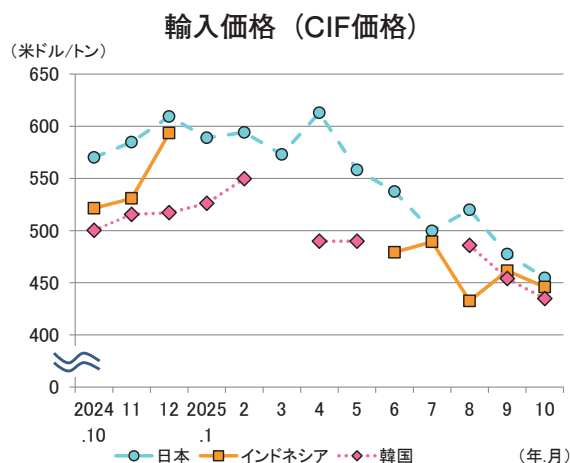
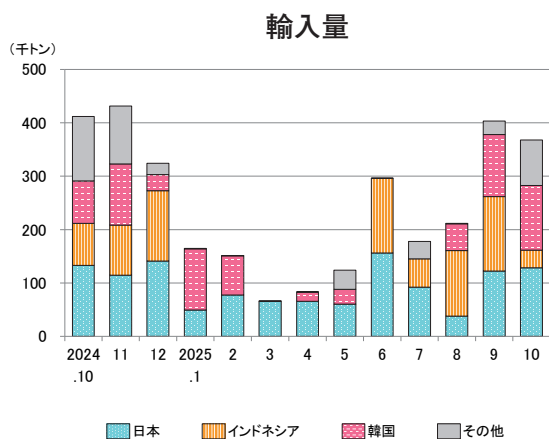
年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (12月予測)	2025/26 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	331	341	331	338	338	2.1	
サトウキビ生産量	32,593	29,274	29,603	28,930	28,873	▲2.5	
砂糖	生産量	4,298	4,128	3,920	3,914	▲0.2	
	輸入量	8	10	14	12	▲16.8	
	消費量	996	997	999	1,001	0.2	
	輸出量	3,292	3,700	2,896	2,925	1.0	
	期末在庫量	987	427	467	384	467	0.0
	期末在庫率	23.0	9.1	12.0	9.8	11.9	0.1ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2026」

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 主要国の豪州産砂糖(粗糖)の輸入量および輸入価格の推移



資料：輸入量はGlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2026」、輸入価格は「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)の数値。

注2：直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域とその他の輸入量を表示。

その他は上位3カ国・地域を除いた国・地域の合計。

ただし、GlobalData UK Ltd.の資料に掲載されている国・地域となる。

注3：豪州の輸出に関する月別の統計情報は公表されていないため、主要輸入国の月別の輸入に関する統計情報に基づき作成。

注4：韓国の25年3月、6月、7月の輸入量は実績なし。

注5：インドネシアの25年1月、2月、3月、4月、5月の輸入量は実績なし。

タイ

2025/26年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：157万ha(前年度比2.2%増)

生産量：9530万トン(同3.5%増)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量：1118万トン(同5.8%増)

輸出量：888万トン(同30.6%増)

2025/26年度の砂糖輸出量は大幅な増加見込み

2025/26年度(10月～翌9月)のサトウキビ収穫面積は、157万ヘクタール(前年度比2.2%増)とわずかな増加が見込まれている(表)。サトウキビ

生産量は、収穫前の乾燥した天候が収量に有利に働くことで、9530万トン(同3.5%増)とやや増加が見込まれている。しかし、25/26年度のサトウキビの最低取引価格の期首価格が大幅に引き下げられ、キャッサバ価格が安定している現状を踏まえる

と、キャッサバの方がサトウキビより収益性が高く、キャッサバへの切り替えが進むという見方もある。

砂糖生産量は、サトウキビの増産により、1118万トン（同5.8%増）とやや増加が見込まれている。しかし、年末年始にかけての製糖工場での圧搾処理の中止やカンボジアとの国境閉鎖に伴う労働力確保

の問題などで収穫遅延が発生していることから、累計での生産量は前年度を下回って推移している。砂糖輸出量は、ブラジル産の輸出量減少が見込まれている中、砂糖の増産を背景に888万トン（同30.6%増）と大幅な増加が見込まれている。

表 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

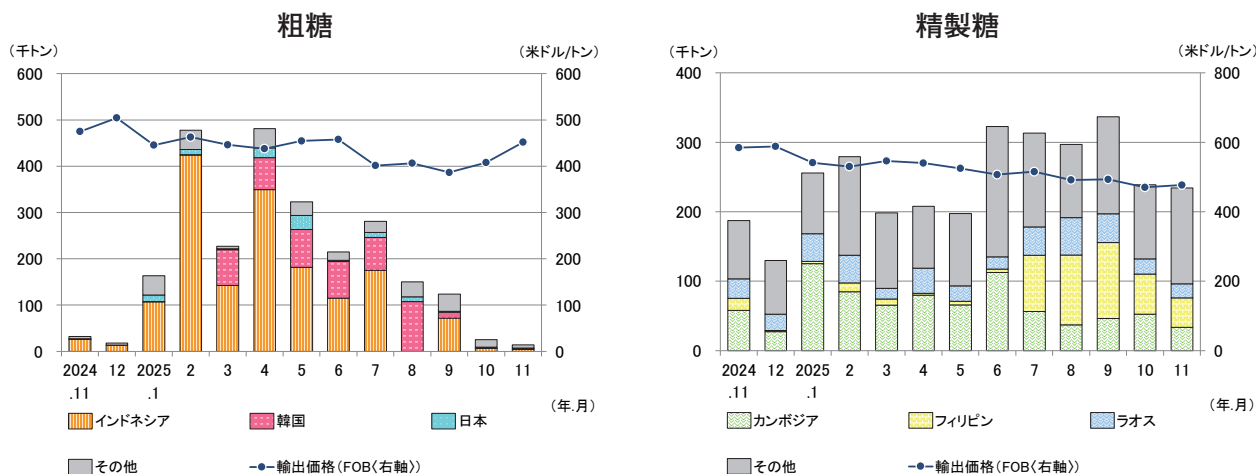
年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (12月予測)	2025/26 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,514	1,475	1,541	1,574	1,574	2.2	
サトウキビ生産量	93,888	82,167	92,043	95,300	95,300	3.5	
砂糖	生産量	11,688	9,315	10,571	11,182	11,181	5.8
	輸入量	282	249	368	40	40	▲ 89.1
	消費量	3,348	3,186	3,220	3,238	3,238	0.5
	輸出量	8,002	5,888	6,798	8,874	8,876	30.6
	期末在庫量	2,591	3,080	4,002	3,118	3,109	▲ 22.3
	期末在庫率	22.8	33.9	39.9	25.7	25.7	14.3ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2026」

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。